

Project

「明日架ける橋」

～今、浮かび上がる最上川鉄橋～

ふるさと情熱隊

FURUSATO JONETSUTAI

～最上川鉄橋ライトアップ・プロジェクト～



1, はじめに (主 旨)

私たち「ふるさと情熱隊」は、「今の若い衆って、何したなや…」と言わせておけないと、平成元年5月に誕生し、「劇団ふるさときゃらばん」の白鷹公演を、見事成功させた。

その後約2年半経過しているが、何か物足りなさを感じていないだろうか。

みんなのエネルギーを「最上川鉄橋ライトアップ」作戦にぶつけてみよう。ライトアップされた鉄橋を見たいと思うだろう。だれもがやった事のないこのイベントを、私たちの手で実現させ、みんなで成し遂げることの喜びと感動を味わおう。

2, 目 的

今、日本は、本格的な地方の時代と言われて各地で様々なイベントが催されている。白鷹町も多分にもれず、地域活性化に取組み時代を築こうとしている。

そこで白鷹町に残る歴史的建造物(最上川鉄橋)をライトアップし、その姿を再認識することで町の発展に寄与したい。

3, 橋について

私たちの町に初めて鉄道が通ったのは大正時代のことです。それまで、長井までしかなかった「長井軽便鉄道」が、民衆の強いはたらきかけによって大正11年12月、まず、鮎貝駅まで開通しました。さらに翌12年4月、最上川荒砥鉄橋の完成と共に荒砥駅まで全線が開通、「国鉄長井線」として始まりました。

長井線はこの町に多くの産業を生みだし、町の発展のために大きな活躍をしました。その後、昭和62年3月、国鉄民営化にともない「JR長井線」となりましたが、近年の車社会の波には勝てず、廃止決定路線となったのを機に、昭和63年10月、今年も民衆の熱い力によって守られ、現在は「フラワー長井線」となって日々活躍しています。

今回とりあげた最上川鉄橋も、大正12年の完成以来多くの人々や物資を支えながら、長井線と共に今年で70年目を迎えました。

正式名称	最上川橋梁（もがみがわきょうりょう）
型式	ポータル型ダブルワーレントラス橋 ^{*1}
製造年	1886年（明治22年）

実はこの橋、もともとは明治22年に旧国鉄東海道線の河川橋として架けられていた橋^{*2}で、1支間の長さが208フィート（約63m）あり、その後の架け換え工事によって取りはずされ1支間長を150フィート（約46m）に改造して長井線に転用されたもので、初めて人をのせて以来今年で105年を過ぎた橋なのです。

当時の日本はあらゆる面で技術革新が始まったばかりで、この様に支間が長くしかも重い荷物を通せる橋を造ることなどは、とうぜん困難なことでした。そんな中でこの橋は、イギリス人ポールの手によって設計され、イギリスのメーカーが製作し、その指導のもとに日本人が初めて架設したトラス橋の一つでした。言いかえれば日本で一番最初に架けられたトラス橋の一つなのです。

ただし長井線に転用する際の改造工事はすべて日本人の手によるもので、一連150フィートを3連つなげて現在の姿になったものです。

同じ大正12年、やはり元は同じ橋の一部が現JR左沢線の最上川にも架けられ、双子の橋として現在も中山町で活躍しています。

※1トラス橋＝ 細長い鉄骨を三角形の骨組状につなぎ合わせた構造をトラス構造と言ひ、重さが軽い割りに力が強く、又とても経済的である。トラス構造を用いたものにはトラス橋・鉄塔・クレーン等がある。

※2当時、架けられていた川は、木曾長良川説、天竜川説の二つがあり、百年も前のことでもあるので、謎に包まれています。情熱隊では、鋭意調査中です。

4, ライトアップとは？

近年、夜の活性化対策として、景観照明（ライトアップ）が各地で行われています。景観照明は夜間に対象物の存在を単に認識させるにとどまらず、昼間には見られない立体感を出し、美しく見せます。

日中の建造物を見慣れてしまった目には、どうということはないものでも、夜間の照明によって浮かび上がるその姿は、長井市の「久保のサクラ」「蔵王の樹氷」、何年か前に行われた「長井橋のライトアップ」etc を見れば明らかです。

5. 方 法

最上川に架かる「フラワー長井線」の鉄橋のトラス（3連）を、兩岸からのライトアップと、イルミネーションで装飾を行います。
方法についての説明は以下の通りです。

(1) 使用機材

☆ 白色系照明灯（東北電力より貸し出し）

1 Kw(200v) / 2基
400w(100v) / 3基
250w(100v) / 4基

☆ イルミネーション照明（買取り）

1セット44.8m (110v/5w 球が112個付属) × 35セット

6. 予 算

項 目	金 額 (単位 * 万円)	備 考
1. 工事費	200	仮設・設置
2. 機材費	150	イルミネーション電球 照明灯は無償
3. 電気料		概算基礎 * 約20,000円 / 1日当り
4. 事務費	50	事務用品 (概算)
5. その他	100	宣伝広告費・予備費・雑費
T o t a l	500 + (3. 電気料)	

7, 収入について (基本的考え)

本プロジェクトの収入については、寄付・浄財を広く募ることを基本としたい。企業による寄付については、税制上の問題もあり、所轄税務署との協議を必要としている。

ほか、「ふるさと情熱隊」ブランドによる物品販売、広告収入、写真などの著作権管理による使用料収入などが見込める。

参 考

白鷹町づくり総合助成事業 (利用限度額 円1,000,000)

情熱隊防寒コート 円12,000/1着

8, 実施期日 (最終予定日)

平成4年12月24日(水)～

平成5年1月7日(木)

クリスマスから翌年正月の松があげるまで。

後 援 山形鉄道株式会社

協 力 東北電力(株)長井営業所

このプロジェクトは、みなさんの協力なしには実現しません。
主役は、私たち、ひとり一人です!!